



Leave no Trace 精神に学ぶ

山での緊急時のトイレは一体どうすればいいのでしょうか。持帰らず残したものは、その場所で廃棄物になってしまいます。「Leave no Trace™」という米国の野外教育NPO団体（www.lnt.org）では野外活動での排泄物への対処を次のように進めていますので要点を紹介します。

一般的に知られている考え方に反して、糞便を土に埋めるとゆっくりと分解するという研究報告もあります。土に埋められると、病原体は1年間以上も生き残ることが分かっています。しかし、他の問題をも考えると、糞便を土に埋めるのが一般的に最良とされます。分解には時間がかかるので、適切な場所（水、キャンプサイトなどから遠い）を選ぶことが必要です。この土に埋めるために掘る穴のことを「キャットホール」と言います。

キャットホールは糞便処理で最も広く認められた方法です。水、コース、キャンプ場から出来るだけ離れた、目立たない場所に決めて下さい。

小さな移植ごて（又は代用品）で糞便がかくれる程度の穴を掘って下さい。使用後、土で穴をふさぎ、落ち葉などの自然物で覆って後を隠しましょう。

同じ場所に何泊もキャンプするとか、メンバーが多い場合などは、キャットホールの場所を広く分散することが大切です。

尿は、植物または土への直接の影響はほとんどありません。しかし、尿においてはその場にかぐわしい香りを発生させ、動物たちは尿から生まれる塩分を採ろうと、地面を足先でかきまわし、植物の葉をむしり取ります。そのため出来るだけキャンプサイトから遠ざかって、岩場あるいは砂地で排尿すべきです。

山のトイレゴミを減らしましょう

◆トイレゴミを減らすには◆

- ①まず、入山前にトイレに行こう。
- ②山では出来るだけトイレで用を足そう（財布に小銭を忘れずに）
- ③使用済みの紙は必ず持ち帰ろう。（ポリ袋はいつも携帯しよう）
- ④携帯トイレも使ってみよう

◆山のゴミを分類すると◆

ゴミ区分	説明	内容
トイレゴミ	排泄等で使用済みとなったもの	ペーパー、ナプキンなど
ポイ捨てゴミ	登山等中で捨てられたゴミ	ボトル、缶、包装紙、弁当ガラなど
生ゴミ	自炊や食事で出たもの	残飯、残汁など

上記は登山者の努力で減らせることができるものです。

挿絵協力：とよだ時

置き去りにしないで 山のトイレゴミ (持ち帰りにご協力を)



屋外でも、山小屋のトイレでも、使った紙は持ち帰りましょう。

そのためにポリ袋はいつも携行しましょう。

(公社)日本山岳・スポーツライミング協会
自然保護委員会

<http://www.jma-sangaku.or.jp/>



最近の山のトイレ事情

最近、山のトイレには、快適な設備が導入されつつあります。そのため、より多くの人々が山へ出かけるようになってきました。

しかし、人気の山は登山者が集中しすぎて、自然の収容力を超えた「オーバーユース」状態を招いているのが実情です。

山のトイレは従来式の「ぽとん式」から、バイオなどハイテク技術を導入したエコ・トイレへと進歩しています。

一方で、こうした進歩に登山者の意識が追いついていません。

山のトイレ問題には設備の整備以上に、「トイレマナー」について登山者がもっと学ぶことが求められているのではないのでしょうか？

山のトイレマナー

◆ まず、登山口でトイレを

入山前に、まず登山口でトイレを済ませておきましょう。

◆ チップは必ず払おう

山のトイレのチップ（協力金）は必ず払いましょう。出発前に財布に小銭を入れておきましょう。

◆ トイレ設備のルールに従おう

みんなが快適に使えるよう、利用方法など決められたルールを守ろう。

注意！ 下着、生理用品、紙おむつ等は絶対に捨てない。右コラム参照

◆ 紙は持ち帰ろう

使用済の紙は持ち帰りましょう。出発前にザックにポリ袋（密閉式が望ましい）を入れましょう。



携帯トイレについて

- ◆ 最近では、知床、早池峰、戸隠、屋久島など多くの山で、携帯トイレが利用されるようになりました。
- ◆ 主要な山岳地域では、登山口での販売、トイレブースの設置、下山口での回収ボックスと登山者にとって使いやすいようになりつつあります。
- ◆ ぜひ、一度携帯トイレを使ってみましょう。

異物をトイレに捨てるとどんな支障が発生？

- ◆ ポケットティッシュや生理用品、オムツ（不織布）、ビニールなど化学原料で作ったものは自然界で分解されず、いつまでも残ってしまいます。
- ◆ バイオトイレなどでは異物がトイレの働きを阻害する要因となっています。
- ◆ 従来式のトイレでも掃除や汲み取りに大変な支障をきたしています。

